

校内研修計画

甲州市立菱山小学校

1 学校課題

本校では、学校教育目標である「自ら学ぶ 人間性豊かな たくましい児童の育成」を目指し、(ひ)「広い見方でよく考える」確かな学力の習得、(し)「しっかりとした体づくり」体力づくりの推進、(や)「やさしい心」情操豊かで自他を大切に作る心の育成、(ま)「まじめに働く」勤労の精神の育成、という4つのめざす子ども像を提示して、教育課程の編成や日課表等の工夫を積極的に行っている。

本校の子どもは、明るく素直で、児童会活動・学校行事などの行事や体験的学習に一生懸命に取り組んでいる。また、全校児童が36名と小規模であるため、子どもたちの豊かな仲間意識を育むための異学年交流活動が盛んであり、休み時間や放課後に他学年の子を誘って遊んだり、高学年が低学年に優しく声を掛けたりする光景がよく見られる。

学習面では、今までの研究成果や少人数学級の利点を活かした個に目を向けた指導の充実等により、基礎的・基本的学力を着実に付けてきている。さらに、授業中の全員発言や話し合い活動の充実などの取り組みを通して、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を聞き取ったりする意欲や力が増してきている。

しかし、少人数の限定的な集団の中では、論理的な言葉を介さなくても互いに理解しあえる側面もある。授業でも考えを論理的に伝えることができなくても、子どもたちの間では、何となく伝わり分かったような気になる場面や、自分の考えはしっかり持っているながらも、伝え方が分からずに途中で言葉に詰まってしまう場面が散見された。そのため、本校では自分の考えを表現する力の向上やコミュニケーション能力の育成が大きな課題となっている。

2 研究主題

主 題 「主体的に学習する児童の育成」

副主題 地域の力を活かした対話的な学びをつくる学習活動の工夫

3 主題設定の理由

子どもたちは、これからの社会を生き抜くために、自立し、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力を求められている。そのため、知識の質や量の改善とともに、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重視されている。さらに、社会の変化に目を向けて、教育が普遍的に目指す根幹を維持しつつ、社会の変化を受け止めていく「社会に開かれた教育課程」の編成が必要となっている。そのためには、子どもや地域の実態を踏まえて、地域の人・ものを活用し、地域社会と連携していくことが重要になる。

昨年度は、本校の新たな“看板”となる「コミュニティ・スクール」導入等促進事業（平成28・29年度指定）を踏まえ、「地域の力を活かし」ながら、新学習指導要領に挙げられている「対話的な学び」ができる学習活動の工夫を研究してきた。そこから、子ども同士の協働学習や学校内外の人との対話、地域学習などで得た学びを基に、自分の考えを持ち、他者と交流し、新たな気づきや知識を得ることを目指した授業づくりを行うことができた。また、地域の力を活用するという観点から、体験活動や地域の人たちとのかかわりを通して、学ぶ目的や意義を認めながら展開する学習活動を工夫することもできた。さらに、研究の成果や本校の特色を地域へ発信していく文化祭のあり方を明確にすることもできた。

今年度からは、学校運営協議会が正式に発足し、コミュニティ・スクールとして、家庭や地域との一層の連携を深めた教育活動を進めていくことになる。これまでの研究の成果を土台として、自分の考えを広げる「対話的な学び」をつくる学習活動の工夫をさらに図っていく。理解したことを他者に説明したり、他者の話を聞いて新たな知識を得たりなど多様な表現による「対話的な学び」の充実を図ることが、児童が身につけた知識や技能を定着させ、物事の多面的なより深い理解に至る。そして、習得した知識や技能を活用して、問題解決に向けた探究活動に効果的に結びつけていく。このような自分の考えを広げ深める「対話的な学び」をつくる学習活動を通して、知識や経験を「自分のもの」とし、学ぶ意義を見だし学習への達成感を味わうことで、より主体的に学習する児童の育成につなげていきたい。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携し、授業の構造化の定着とともに、「NRT」

「Q・U」調査を活用して学力向上とともに、互いを認め、高め合う学級集団づくりにも焦点をあててきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

- 「対話的な学び」から学びをより確かに、より深くするための授業展開を検討し、実践する。
- 地域の力を授業に活用できる場面の開発をする。
- 文化祭を地域の力の活用や児童による学習したことの効果的な発信の場にするための内容及び運営の仕方を研究実践し、改善を図る。
- ・3つの柱から研究活動をすすめる。
 - 【授業づくり・授業改善】
 - ①「対話」を通した学びをつくり、自分の考えを広げ深める力を育成する授業づくりの研究
 - ②授業の構造化、ノートづくりの研究
 - 【学級・集団づくり】
 - ①Q-Uを活かした児童理解と学級集団作りの研究
 - ②個の力を伸ばし建設的な集団をつくるために、児童が主体となって行う活動の研究
 - 【保護者・地域との連帯】
 - ③CS 単元構想案の作成
 - ④学校支援ボランティアとの連携
 - ⑤学校行事の持ち方の工夫と改善
- ・児童の変容を明確にするため、アンケートの作成をする。
- ・講師や学校運営協議会委員から助言等を頂き、検証とまとめをする。

5 年間研修計画

研究テーマ	教科領域等	研究主任 武井 麻子			
		担当者	学年	授業の時期	T/C要請
「主体的に学習する児童の育成」 地域の力を活かした対話的な学びをつくる学習活動の工夫	・校内研の主題・内容・年間計画の決定 ・児童の実態把握(Q・U検査・NRT検査)	研究主任		4月	
	・K13法による児童の実態の分析 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組の提案 ・単元構想案の作成	研究主任 各担当 ブロック長		5月	
	・単元構想案の作成と検討、決定	ブロック長		6月	
	・ブロック研究(授業づくり)	ブロック長		7月	
	・教育課程研究(還流)・ブロック研究 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各担当		8月	
	・授業研究会 ・ブロック研究(授業づくり・文化祭)	ブロック長 各担当	2年	9月	○
	・ブロック研究(文化祭) ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	授業者 各担当		10月	
	・校内文化祭(実践) ・K13法による児童の実態の分析 ・単元構想案の作成と検討、決定	授業者 研究主任		11月	
	・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各担当		12月	
	・ブロック研究(成果と課題)	ブロック長		1月	
	・校内研究全体の成果と課題	研究主任		2月	
	・次年度教育課程の編成 ・研究紀要作成	教務主任 研究主任		3月	

